

請願第1号

京都府後期高齢者医療保険料・窓口負担の
引き下げなどを求める請願書

紹介議員

玉本 なるみ



請願の趣旨

- 1 京都府後期高齢者医療保険料・窓口負担を引き下げること。
- 2 京都府後期高齢者医療保険料・窓口負担の減免制度、傷病手当金制度の新設・拡充をすること。
- 3 後期高齢者が健康で自分らしい生活を維持できるように、健康診査項目の充実、健診補助制度の新設・拡充を行うこと。
- 4 国にたいして後期高齢者の窓口負担・保険料の引き下げを求める意見書、補聴器購入助成制度の実現を求める意見書を提出すること。

請願の理由

京都社会保障推進協議会が西陣地域で行った高齢者アンケートの結果では、年金 10 万円以下で暮らす方が 52%、医療と生活の負担感が高いと答えた方が 68%、行政には多くの方が「保険料の引き下げと窓口負担の引き下げ」を求めています。

このアンケート結果にもあるように高齢者の暮らしは、異常な物価高騰と低すぎる年金で厳しい生活を余儀なくされています。

その中で、昨年 9 月に、一定所得以上の後期高齢者の窓口負担割合を 2 割負担の「配慮措置」が終了し、受診控えも起こっているとされています。さらに 2026 年 4 月からは「こども子育て支援金」が後期高齢者医療保険料に上乘せされます。この結果、負担増による生活のさらなる悪化が心配です。

また、特定健診や保健指導が健康年齢を引き上げ、医療費の抑制にも効果があることが厚労省などの調査で明らかになっています。糖尿病・心臓病・脳卒中などの生活習慣病の発症や重症化を未然に防ぐために、健診項目（胸部レントゲン検査・心電図・聴力検査・歯科健診など）の拡充、脳ドックなどへの補助制度拡充が必要です。

さらに高齢者の健全な生活を保障するために加齢性難聴の方への補聴器購入の公的補助制度が必要です。

2026 年 1 月 29 日

京都府後期高齢者医療広域連合議会議長
山本 恵一 様

請願者 住所 京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都 6F
氏名 京都社会保障推進協議会議長 渡邊 賢治 
電話 075-801-2526

上京翔鸞学区・医療と介護の高齢者アンケート結果

年金10万円以下が52%、0の方も4%
医療と生活の負担感68%、
行政には「保険料の引き下げと窓口負担の引き下げ」が強い要求

京都社会保障推進協議会
高齢者プロジェクト

1 調査の目的

物価高のもと、医療費の窓口負担、後期高齢者医療保険料・介護保険料などが引きあがる中で、高齢者の生活実態と要求を知ることが目的に実施。

2 訪問日時

調査日	2025年10月17日(月)	調査スタッフ	18人	アンケート回収	42人
	11月06日(木)		23人	アンケート回収	18人
	11月10日(月)		20人	アンケート回収	8人
	11月23日(日)		10人	アンケート回収	8人

合計 調査参加者のべ71人・アンケート76人分集約

3 調査地域 西陣地域

4 調査結果の概要

- ・性別は、女性が66%、男性が34%
- ・年齢は、75歳～79歳の方が33%で一番多かった。
- ・世帯は、夫婦世帯が36%で一番多く、単身世帯24%、2世帯24%(33.1%)だった。
- ・82%の方が就労しておらず、収入は年金にたよっている状況と思われる。
- ・年金収入は10万円以下の方が52%と約半数になっている。高齢者夫婦無職世帯で支出は27.3万円(2023年12月7日社会保障審議会介護保険部会)であり、年金だけでは生活できない状況であることがわかる。
- ・医療費の窓口負担は75%が1割だが、「医療と介護の負担感」は、68%の人が負担を感じている。
- ・暮らしの不安は、物価高、健康、医療、認知症、年金、介護が高い割合で、もっとも多いのが物価高42人で55.3%と過半数を超える。昨年の「生活が悪くなった」(44%)という設問と同じではないが、生活水準の悪化がすすんでいるのではないかとと思われる。
- ・介護サービスについては、受けていない方が83%で、予防のための介護を受けて欲しいが、どこに相談に行けば良いか分からない、まだ大丈夫という方が多く、介護保険を受けていない方が多いと思われる。
- ・行政に望むことは、保険料の引き下げ(49%)、サービス時間の延長(22%)、利用料の引き下げ(17%)が多かった。保険料と窓口負担の合計では66%となり、負担の大きさをなんとかしてほしいと

訴えている。

・なお、訪問先でお聞きした要求・要望は、物価高、買い物の足の確保、こどもの将来、補聴器助成、いこいの広場の常設、夜中に一人で亡くなるのが心配な、病気で疲れやすい、市バス・地下鉄の負担を減らしてなど幅広いものであったが、物価高への不安、介護保険料の引き下げ（介護保険を利用していないのに保険料だけ払うことへの不満）、介護職員の処遇改善を求める声が複数あった。

5 総括

訪問先の玄関を開けると古い織機があり、昔ながらの京都の西陣を彷彿とさせる。戦前戦後を支えてきた人たちがお金の心配なく、健やかに暮らしていくためには、現在の物価高や高い保険料、窓口負担への対策、低い年金の改善が必要と考える。

まちづくりも含めた、それぞれの方が、その人らしい暮らしをしていけるための施策が求められる。

6 訪問先でお聞きした声

○病気で歩きにくく疲れやすい。精神的不安が強い。

○来年後期高齢者の仲間入り。実際にどんな変化が起きてくるのか不安。全てに対し物価高には非常に困る。

○高齢で車を手放したいけれど、足が無いのでなんとか車に乗っている。

○給料を上げてほしい。

○独居なので夜中に一人で亡くなることが心配。

○介護サービスのスタッフがしんどそう。もっと待遇を良くしてほしい。店が閉店して近くで買い物する場が無い。近くにコンビニがあれば助かる。防災で非常時、避難場所が遠い。路地が狭いし、カートを押していくには不安。ヘルプしてくれる人が欲しい。近くで孤独死が何軒もあり、町内で話し合われたとの事。

○10月に介護保険料が大幅にアップした。年金の手取り金額がマイナスになった。公的負担が多すぎる。物価高騰に見合う年金を引き上げてほしい。

○ケア労働者の賃上げを。国の補助を要請してほしい。介護が必要になった時、介護保険の利用が本当に出来るのか？国家「サギ」にならないように。

○補聴器の補助を京都府や市も実現してほしい。国民が安心して暮らせるよう暮らしや福祉に税金を使ってほしい。

○医療費の自己負担を安くしてほしい。

○いこいの広場を常設して欲しい。地場産業再生で働く場を身近にして欲しい。

○後期高齢者の医療費を下げたい。高齢者が元気で生活、生きがいもてるよう出かけやすくするためにも市バス、市地下鉄の負担を減らして欲しい。敬老乗車証運賃の負担軽減を。

○介護保険料、市民税が高い。将来が不安。

○介護保険料が高い。何も使っていないのに。

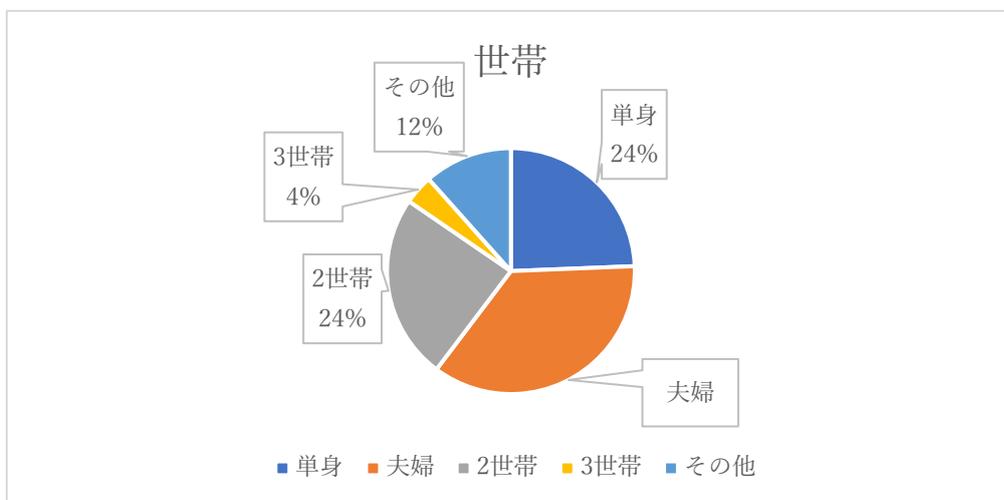
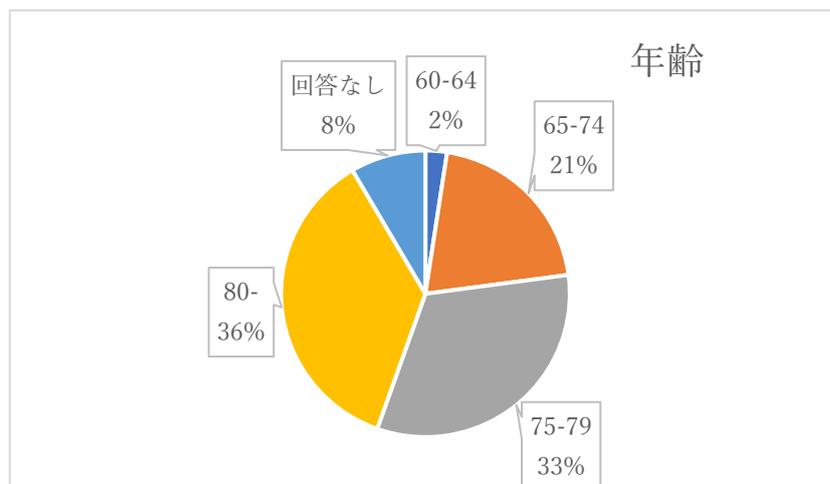
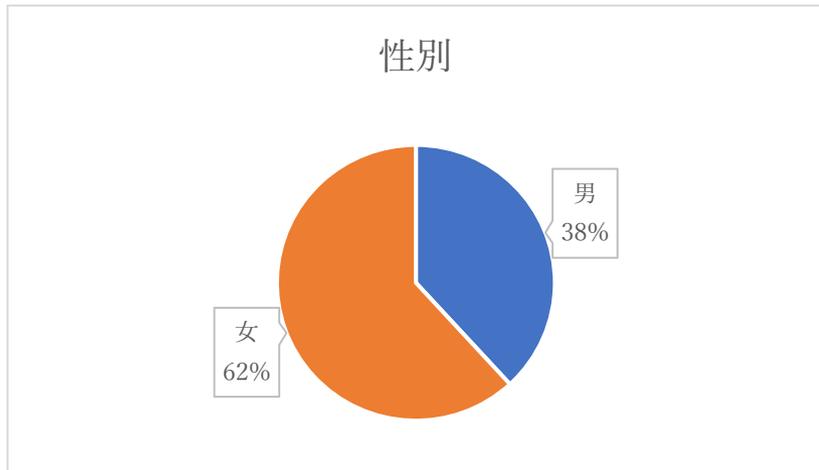
○ヘルパーさんが高齢になって大変そう。事業所がつぶれている。医療機関も大変そう。物価高で皆大変で公的支援を望みたいが期待できそうもない。4兆円の削減なんてとんでも無い。

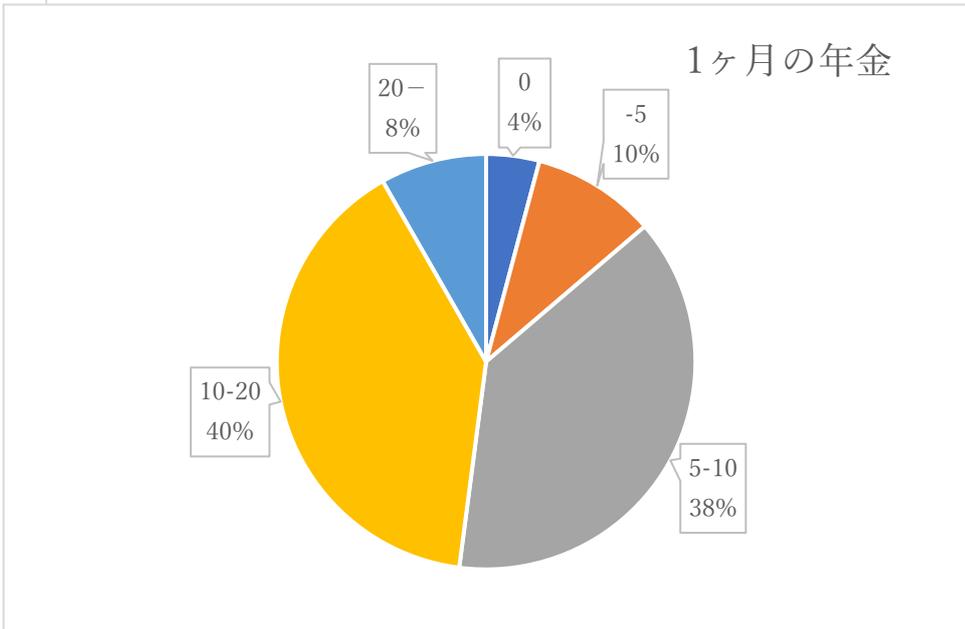
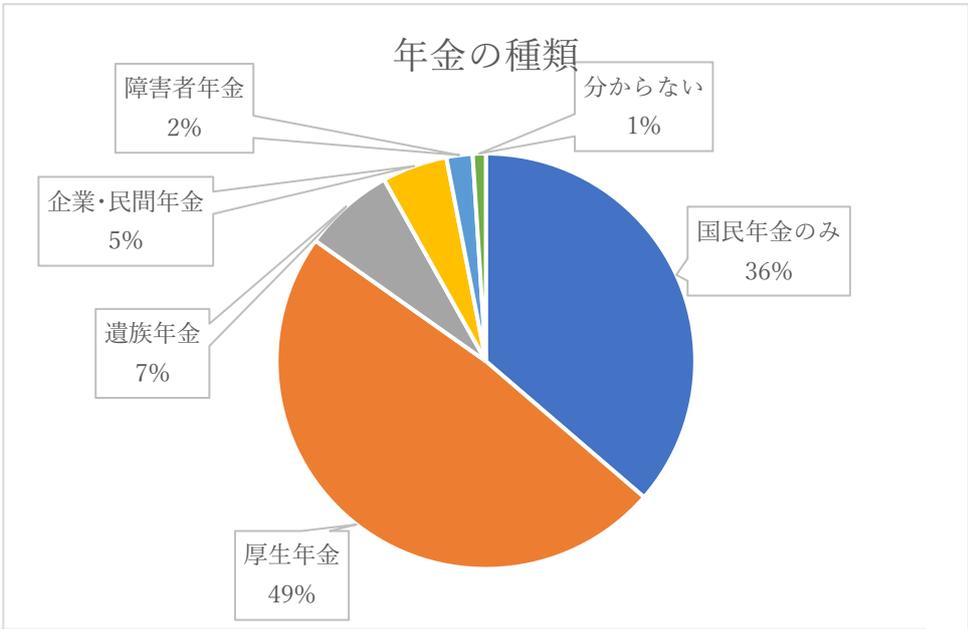
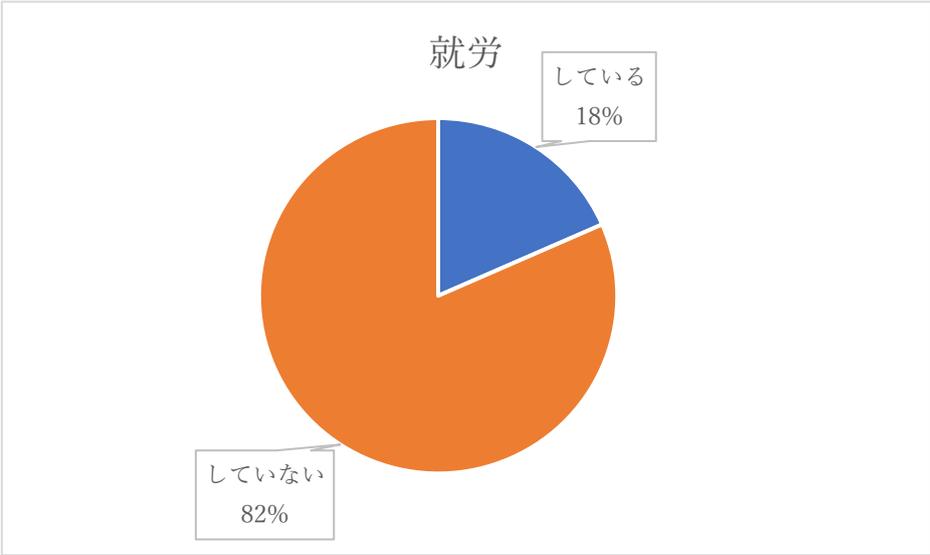
○訪問介護が崩壊の危機にある。支援の充実を望みます。政府が目先の対策だけでなく根本的対処をし

て欲しい。

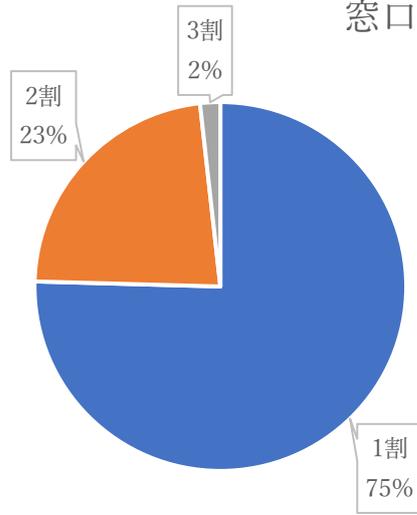
○社協の体操に行ってお何とか、健康に気を付けているが、耳が遠くなり困っている。

○年齢的に高齢になっている。この先今の生活を続けていけるか不安がある。(80以上) ○あまり医療機関にはかかっていない。かかりつけ医が無いので、もしものときが不安。○子供への支援策を強めてほしい

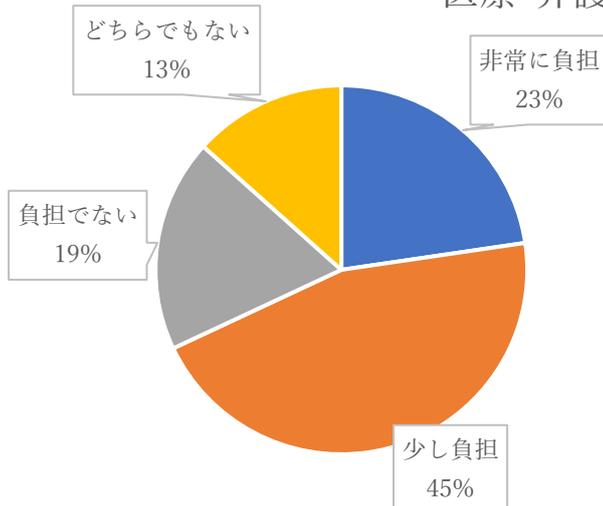




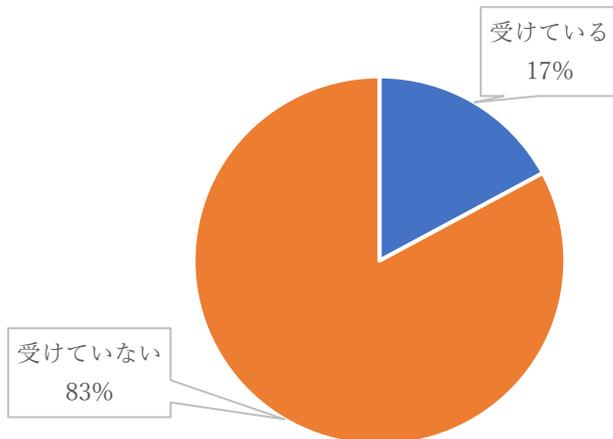
窓口負担の割合



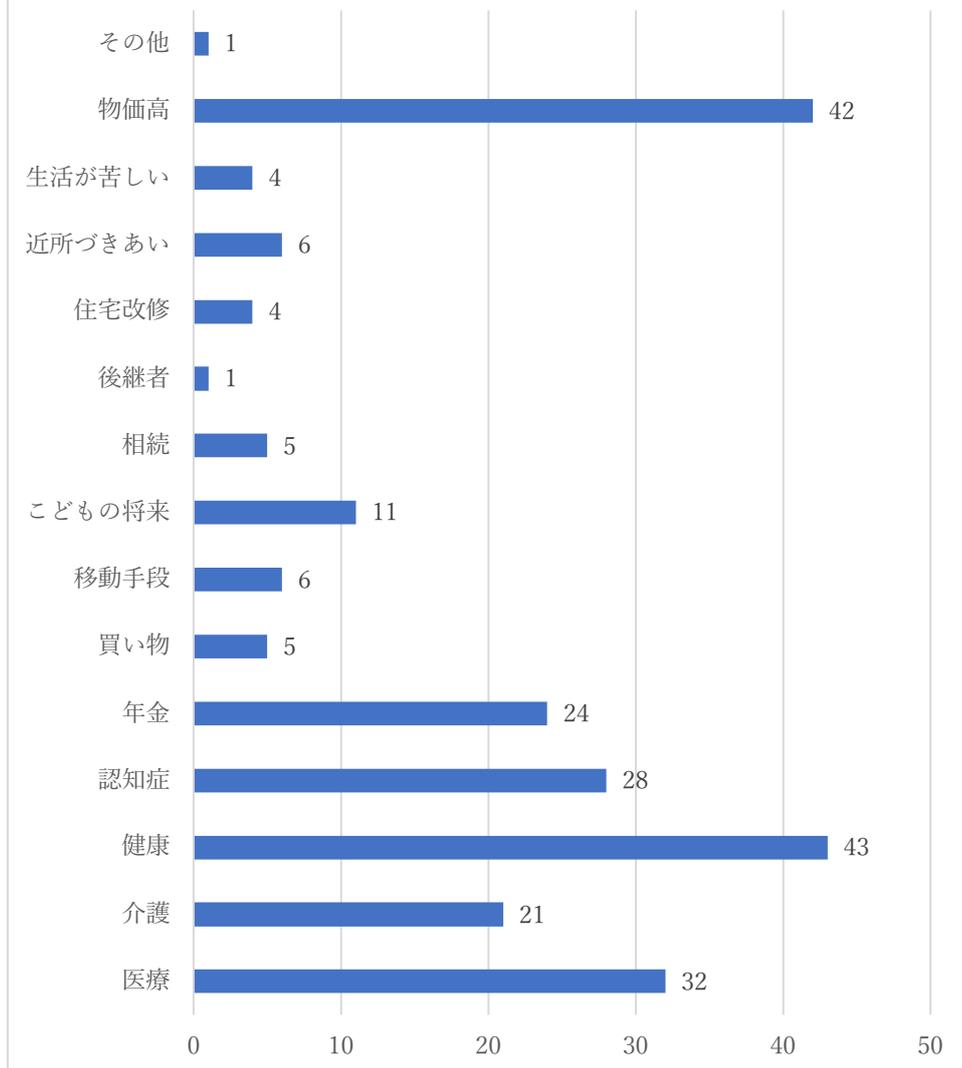
医療・介護の負担感



介護サービスを受けているか



暮らしの不安



行政に望むこと

